

都道府県名	和歌山県
-------	------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	海南市立第一中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	7	15
生徒数	50	48	45	2	145	

研究の概要

1. 研究主題

指導方法の工夫改善による学力の向上をめざして
— 少人数指導と評価を中心に —

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 3年生・数学
子どもの理解度に差が出やすい教科、学年で個に応じた指導を展開するため
- ・ 2・3年生・英語
多様なコミュニケーション活動で「個を生かす授業」を展開するため
- ・ 1年・理科
これまでの研究成果と生徒の学習状況から、きめ細かな指導を必要とするため

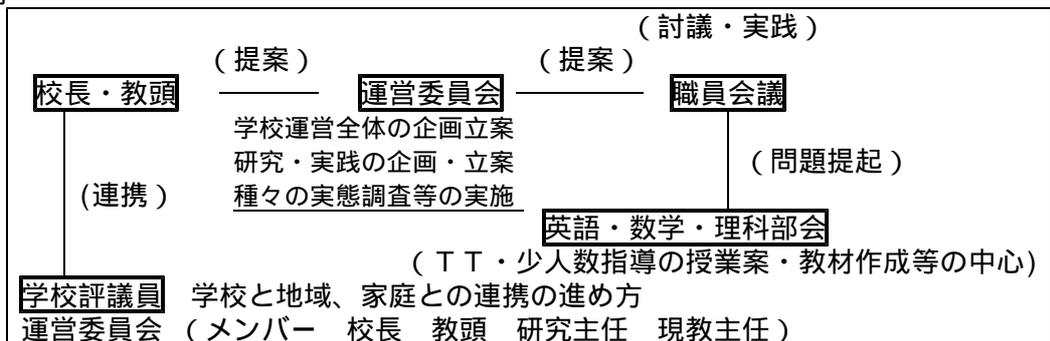
(2) 年次ごと計画

平成 14 年度	<p>テーマ 個に応じた指導のための方法・指導体制の工夫改善 研究の見通し（仮説） 学習上の生徒のさまざまな個人差に応じた指導方法の工夫改善を行えば、きめ細かな指導が実現し、生徒の学習意欲を喚起し、学力向上につながっていくのではないかと、という仮説を設定。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ TTや少人数指導といった個人差に応じた指導方法の工夫改善についての研究と実践 ・ TTや少人数指導の効果的な運営のための、教師の連携、研修方法、職員体制のあり方についての研究 ・ 個々の生徒の学力面のとらえ方の研究
----------------	---

平成 15 年度	<p>テーマ 「評価と指導の一体化」を基軸にした教科学習の指導方法の工夫改善 研究の見通し 学習過程で評価活動を積極的に取り入れることにより、指導と評価の一体化を図れば、教師の指導的力量や生徒たちの学習意欲は向上する、という仮説の設定。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価活動の工夫改善 ・ 評価を指導へ生かす方法 ・ 保護者や生徒への説明責任
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 個に応じた指導方法の充実に係る教材作成を中心に研究・実践に取り組む</p> <p>研究の見通し 指導方法の改善、評価と指導の一体化に係る教材作成や資料作成を工夫すれば、個に応じた指導方法の一層の充実につながる、という仮説の設定</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個に応じた指導に係る補足的な学習や発展的な学習のための教材 ・ 指導方法の工夫改善に係る諸資料の作成 ・ 研究と実践の成果を効果的に表す資料作成のあり方について ・ 3年間の研究と成果をまとめる資料作成のあり方について
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

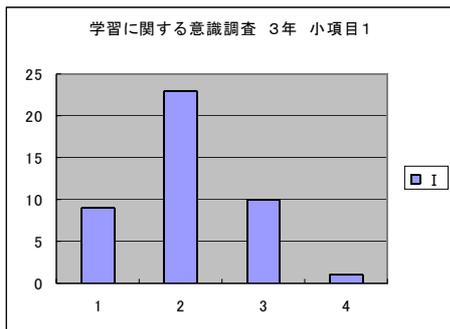
成果

1 数学科・英語科における効果的な授業形態の精選

スタイル(s)		授業形態の説明	よい点と課題点
s1	TT	全員が1つの教室に入り、2人の教師で、授業をすすめていく。 グループ学習も取り入れる。	指導にロスが少ない。即座に教師間で指導を確認できる。 習熟度別指導が困難。
s2	少人数授業	生徒を機械的に二つの教室に分け2人の教師が同じ課題を指導する。	きめ細かな指導が可能。
s3	少人数授業 (習熟度別・生徒選択)	2つの教室を、それぞれ基本教室と発展教室として、生徒自身が選んだ教室で授業を行う。	習熟度別指導が可能。 課題は、生徒自身が、自分の力について正確な判断ができないこと。

数学科・英語科における効果的な授業形態の精選をすることができた。
平成14年度は5通りの授業形態を考えたが、学習効果を検証し、生徒の声を取り入れ上記の3通りに絞り込み、一層研究と実践を深めた。

1 生徒対象の学習アンケートから
(1) 少人数授業導入後、勉強がよくわかるようになったか。



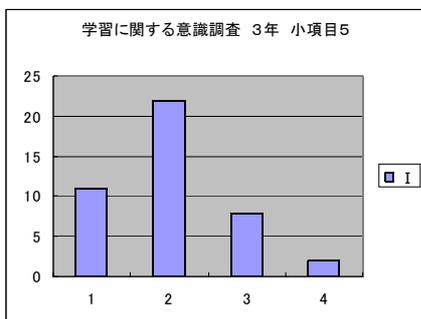
現3学年は英語科、数学科でT T、少人数授業を実施している。右のグラフは生徒のアンケート結果をグラフにしたものである。

T Tや少人数授業を導入後、学習内容がわかるようになったという生徒が多いことがわかる。

- 1 わかるようになった 2 どちらかといえばわかるようになった
3 あまりかわりがない 4 わかりにくくなった

1, 2を指摘する生徒が多くなり、生徒の学習理解度が深まってきたように思われる。

(2) 意欲的に学習できるようになったか。



主に「質問がしやすいかどうか」を基準に、T Tや少人数授業導入後の生徒の学習意欲を調査した結果、かなりの生徒が意欲的に学習に取り組めるようになったという結果が出ている。

- 1 わかるようになった 2 どちらかといえばわかるようになった
3 あまりかわりがない 4 わかりにくくなった

3 指導と評価の一体化

(1) 大学の先生の話聞き、「指導と評価の一体化」について認識を深めた。

絶対評価の導入 学習の到達目標に準拠した評価 「目標と指導と評価の三者の一体化」でなければならない。

目標に準拠した基礎・基本



各教科における研修内容の具現化

各教科における目標に準拠した基礎・基本を明らかにする。

指導と評価の一体化 (授業研究で)

(2) 「指導と評価の一体化」についての理論を各教科で実践化する。

具体的な実践事例

学習目標	評価規準	到達度目標
関係代名詞(主格) who、which の使い方に慣れ、それを含む文を読んだり聞いたりして内容を理解する。	関係代名詞 主格の who、Which を含むまとまった文を読んだり聞いたりして内容を理解することができる。	who、which を含む文(先行詞が目的語であるもの)の内容がおおむねわかる。

4 数学科における習熟度別少人数授業についての生徒の声

一人の先生に一斉に教えてもらっていた時より

数学はよくわかるか。

(ア、はい イ、どちらともいえない ウ、いいえ)

質問しやすいか。

(ア、はい イ、どちらともいえない ウ、いいえ)

集中しやすいか。

(ア、はい イ、どちらともいえない ウ、いいえ)

数学が好きになったか。

(ア、はい イ、どちらともいえない ウ、いいえ)

どのスタイルの授業がいいですか。(複数回答可)

ア、二人の先生で生徒全員が1つの教室で行う授業

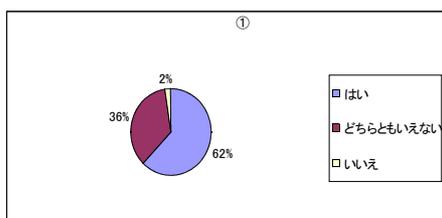
イ、基礎と応用などの教室を自分で選択する授業

ウ、課題を克服できたものから別教室へ移動する授業

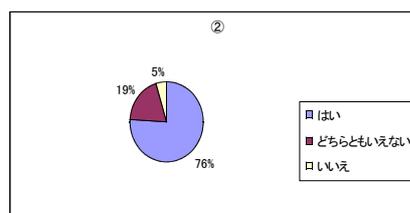
エ、一人の先生で生徒全員が1つの教室で行う授業

結果

数学はよくわかるか

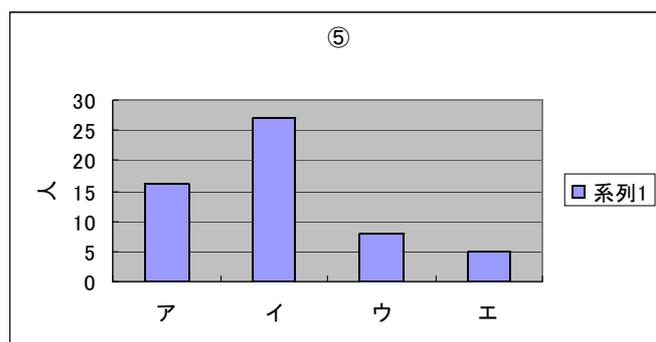


質問しやすいか



数学科の授業に、習熟度別少人数指導やT Tを取り入れることにより、生徒の数学科に対する学習意欲が一段と向上し、 の「質問」という学習内容にも象徴されるように、「学習への集中度」もふくめて生徒の学習活動が活発化されていることが分かる。

どのスタイルの授業がいいですか。



生徒が好きな授業スタイルは、「ア、T T」や「イ、基礎と応用などの教室を自分で選択する授業」であることがわかる。

以上の結果より習熟度別少人数授業やT Tは、生徒の学習意欲を喚起し、取り入れる以前と比較して、生徒の学習の質が向上していることが分かる。

